

今後の病院経営について問う

一般質問



深田 真史 議員
(市民連合)

問 28 年度末、病院に 3 億円を追加支援するかわりに、病院の自助努力が必要と申し上げた。地域包括ケア病棟の看護配置は 13 対 1 であるが、看護師を 261 名も抱える必要があるか。

答 今後、病床形態を変える場合、余剰が発生しますので、行政と協議し適正な職員数を確保したいと思います。

問 民間企業なら、業績が悪化し不良債務が出ているのに給料はそのままというのは明らかにおかしい。業績を職員給与に

反映させることが基本だと考えるが、いかがか。

答 給与では公務員と同じ制度を取り入れており、基本給は非常に触りにくいのですが、手当・インセンティブ等で差をつけることも重要だと思うので、職員がより働く意欲が出る給与体系にできるだけ近づけたいと思います。

意見 内部の意識改革が必要ではないか。そうでなければ本質的な解決にならない。

問 経営形態には地方独立行政法人、指定管理者、民間譲渡という方法もある。職員の任免や組織、予算、運営の権限は、これまで以上に主体的かつ自律的に経営できる。その見直しは。

答 兵庫県下 26 公立病院中、半分は市直営ですので、一度

に経営形態を変えるのではなく、医療需要を見込みながら、2025 年までにゆっくり変換し、市民に不安を与えない経営を心掛けていきます。

問 28 年度決算と同様、資金不足が起こった場合どうするか。

答 (総務部長) 市の財政は潤沢ではないため、継続しての補填は難しいと思っています。経営が安定するように、改善していただけたらと考えています。

■その他の質問項目

- ・土地利用と開発（加西インター周辺整備等）について問う
- ・少子化とこれからの加西市の教育について問う
- ・地区の英霊碑や忠魂碑について問う

市職員の人材確保について

一般質問



土本 昌幸 議員
(公明党)

問 厚生労働省が発表した 10 月の有効求人倍率は前月比 0.03 ポイント上昇の 1.55 倍で、1974 年 1 月以来 43 年ぶりの高水準とありました。景気の緩やかな回復を背景に、製造業を中心に幅広い産業で求人がふえたことが寄与したものとのこと。そこで採用状況についてお聞きします。

答 平成 30 年 4 月採用予定の正規職員の事務職については、7 名の募集に対し 49 名の応募があり、おおむね例年並みの状

況でした。また、臨時職員の募集では、4 月 1 日の採用や欠員等に伴う年度途中の募集を含めて、一定の応募がありました。

問 臨時職員から嘱託職員になる場合、また嘱託職員から正規職員になる場合はどのような試験があるのかお聞きします。

答 臨時職員の希望者に対しては面接等の選考試験で嘱託職員に登用する制度があります。正規職員になる場合は、通常の正規職員の試験を受けていただきます。

問 雇用条件改正の必要性があるのではないかと考えます。小野市では、高齢者層を含めた多様な人材を安定して確保できるよう、定数外職員の定年を 70 歳に引き上げるとのことです。定年延

長の検討も含めて、市職員の人材確保等についてお伺いします。

答 (市長) 民間の雇用状況が大変よくなってきており、正規職員だけではなく、非正規の職員についても、確保が難しくなっていると思っています。そういう意味で定年延長ということも、課題に上げていかなければならない時期にきていると思っています。また、人材については、まず正規職員の能力を高めていく、そして魅力的な加西市で仕事をしたいという環境をつくっていくことが、私の一番の役割だと思っています。引き続き、今必要なことをしっかり行っているという姿を市民の皆さまにお示ししながら、それをつくり上げているのは職員であるということの認識の中で、加西市で働きたいという人をふやしていきたいと思っています。